

3

スポーツクラブ・同好会・チーム

3-1 スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況

スポーツクラブや同好会・チーム（以下、スポーツクラブ）への加入状況をたずねた。

図3-1は、スポーツクラブ加入率の年次推移である。調査を開始した1992年の加入率は19.7%で、1994年の16.9%に減少した後、2000年22.0%まで上昇が続く。その後、2006年18.4%まで再び下降するが、全体的には横ばい状態にある。10年前の2010年18.8%を起点に、2012年19.7%、2014年20.0%、2016年18.1%、2018年18.5%と推移し、今回の2020年調査では17.3%であった。2020年は、調査開始以降1994年の16.9%の次に低い水準となった。

性別にみると、1992年は男性24.2%、女性15.6%と8.6ポイントの差があったが、今回の2020年調査では男性17.8%、女性16.9%となり、加入率の男女差はほとんどない。

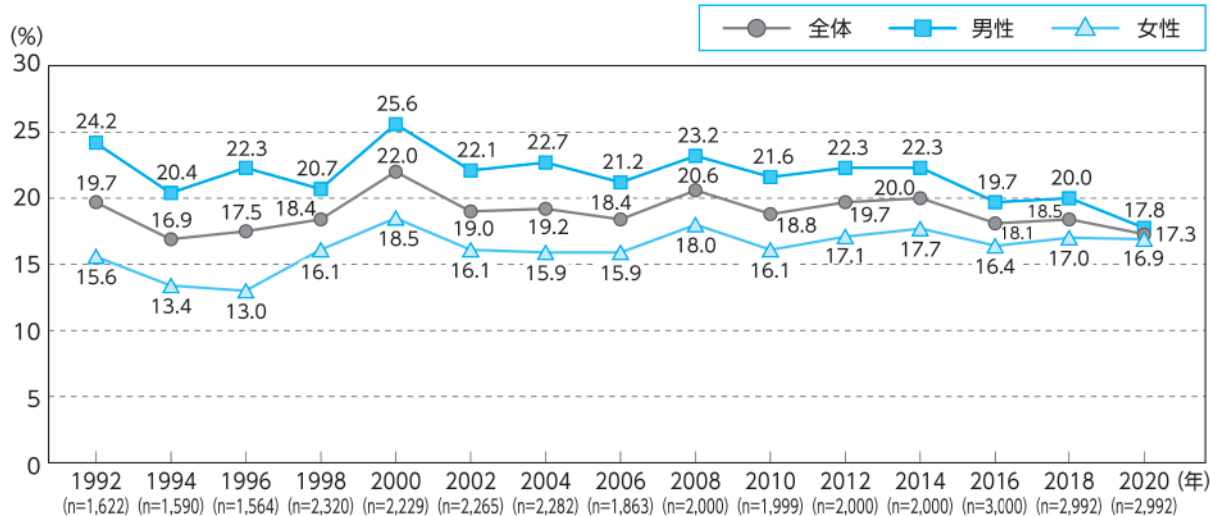
図3-2では、性別や年代別、性・年代別に加入状況を示した。全体をみると「加入している」（加入者）は17.3%で、「過去に加入していたが、現在は加入していない」（加入経験者）は24.2%、「これまでに加入したこ

とはない」（加入未経験者）は58.5%であった。

性別にみると、男性の加入者が17.8%、女性の加入者が16.9%で、男女差は0.9ポイントと小さい。年代別にみると、50歳代以上で加入者の割合が高くなり、70歳以上では28.1%である。

さらに性・年代別にみると、男性の加入者は18・19歳が10.8%、60歳代が12.9%と少なく、50歳代で22.9%、70歳以上で24.7%と高くなっている。加入未経験者は、40歳代と60歳代が6割台、20歳代、30歳代、50歳代と70歳以上が5割台、18・19歳が4割台である。女性の加入率は年代が上がるにつれて高くなっている。70歳以上では30.9%となり、男性の70歳以上を6.2ポイント上回っている。加入未経験者は20歳代、30歳代、40歳代で約7割と高い。

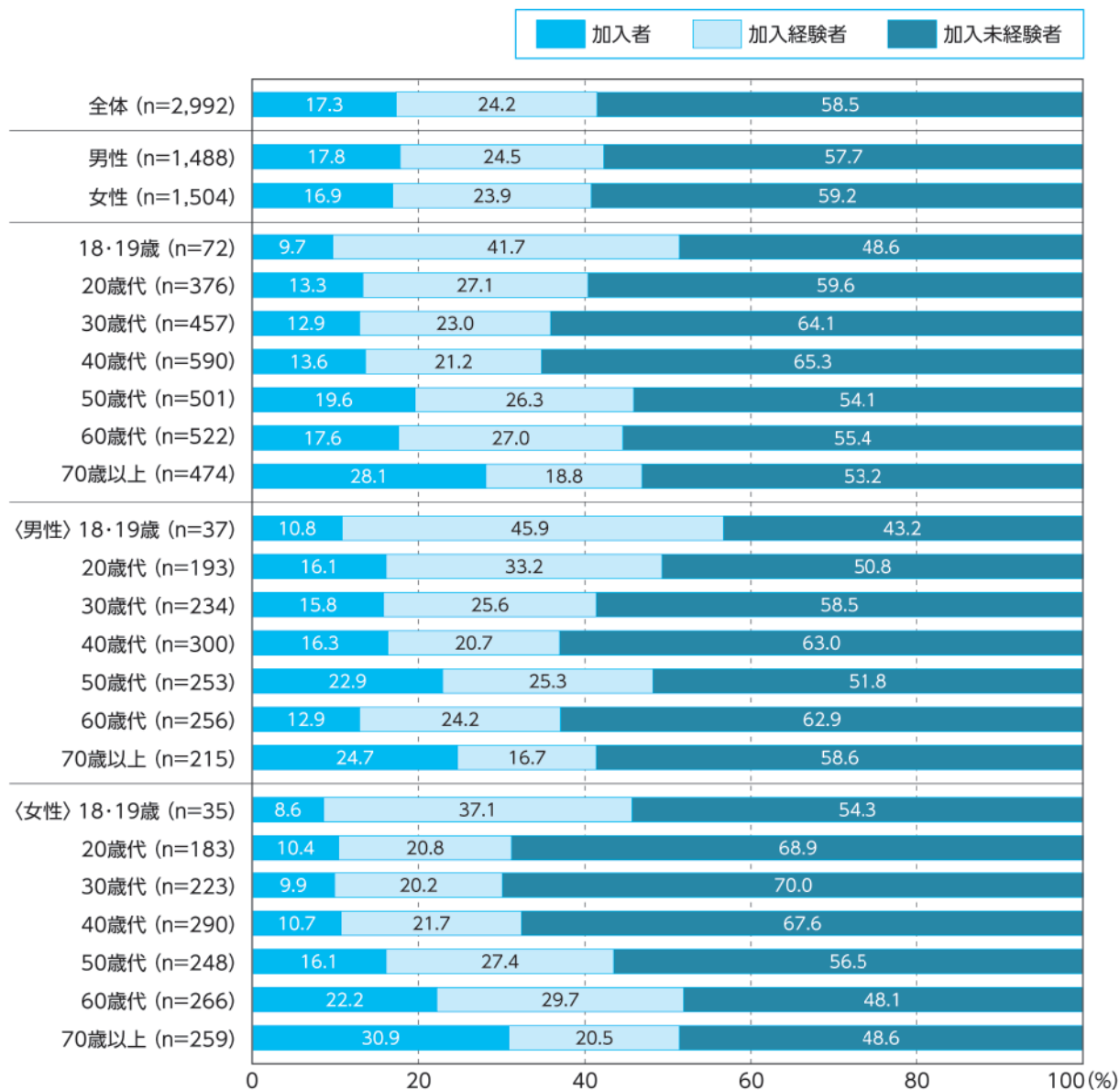
図3-3には、運動・スポーツ実施レベル別に加入状況を示した。「レベル0」は加入者0.9%、加入経験者19.7%、加入未経験者が79.4%となり、加入未経験者が8割近くを占める。「レベル1」以上の加入未経験者は、「レベル2」が61.7%と最も高く、次いで「レベル1」が56.1%、「レベル3」が50.8%、「レベル4」が40.4%であった。「レベル2」以上の加入率はレベルが上がるともに高くなっている。



【図3-1】スポーツクラブ・同好会・チームへの加入率の年次推移(全体・性別)

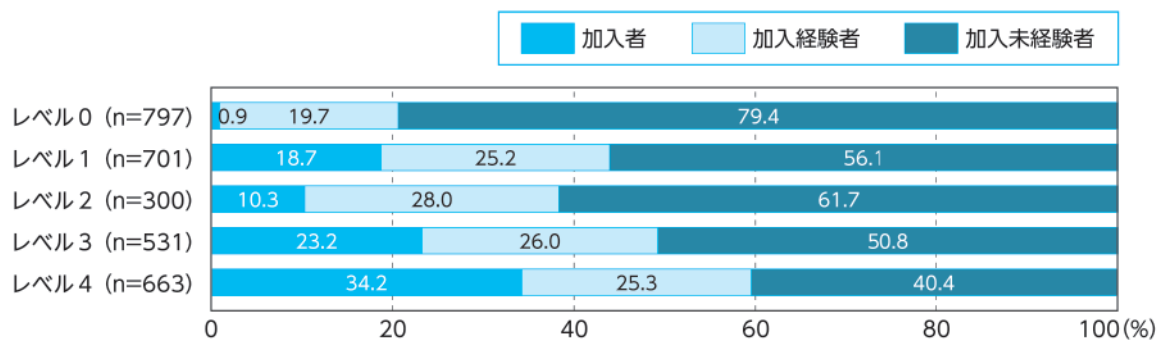
注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020



【図3-2】スポーツクラブ・同好会・チームへの加入率(全体・性別・年代別・性別×年代別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020



【図3-3】スポーツクラブ・同好会・チームへの加入率(レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

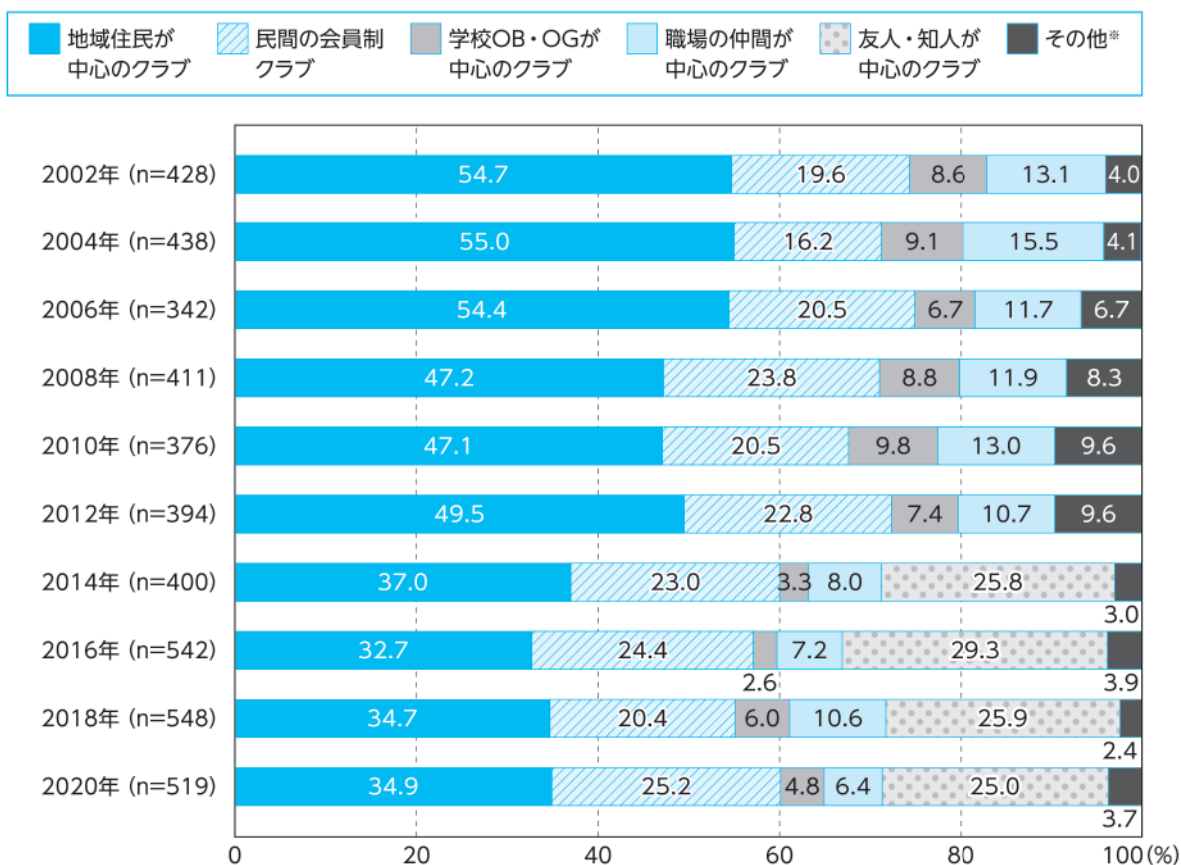
3-2 スポーツクラブ・同好会・チームの形態

スポーツクラブ加入者に、その加入しているスポーツクラブはどのような人たちの集まりかをたずねた。

図3-4は加入しているスポーツクラブの形態の年次推移である。今回の2020年調査では、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・チーム」（地域住民が中心のクラブ）が34.9%と最も高く、次いで「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」（民間の会員制クラブ）が25.2%、「友人・知人が中心のクラブ・同好会・チーム」（友人・知人が中心のクラブ）が25.0%の順となっている。2002年調査以降、いずれの調査年も「地域住民が中心のクラブ」への加入率が最も高い傾向は変わっていない。なお、2012年から2014年にかけて「地域住民が中心の

クラブ」の加入率が49.5%から37.0%へと大幅に減少しているが、これは2014年調査から選択肢に「友人・知人が中心のクラブ」を追加したため、従来の選択肢では「地域住民が中心のクラブ」や「その他」に該当していた回答の一部が分散した影響と考えられる。

今回「地域住民が中心のクラブ」に次いで割合が高い「民間の会員制クラブ」は、2018年から4.8ポイント上昇した。一方で「職場の仲間が中心のクラブ」は2018年10.6%から2020年6.4%へと4.2ポイント減少した。新型コロナウイルス感染拡大に伴い在宅勤務が増加したほか、職場での運動の取り組みやスポーツイベントが中止になるなど、「職場の仲間が中心のクラブ」の活動が難しい状況であった可能性がある。



【図3-4】 加入しているスポーツクラブ・同好会・チームの形態の年次推移

※その他：「学校のクラブ・サークル」「趣味の同好会」など

注1) 「友人・知人が中心のクラブ」は2014年調査から新たに追加した選択肢。

注2) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

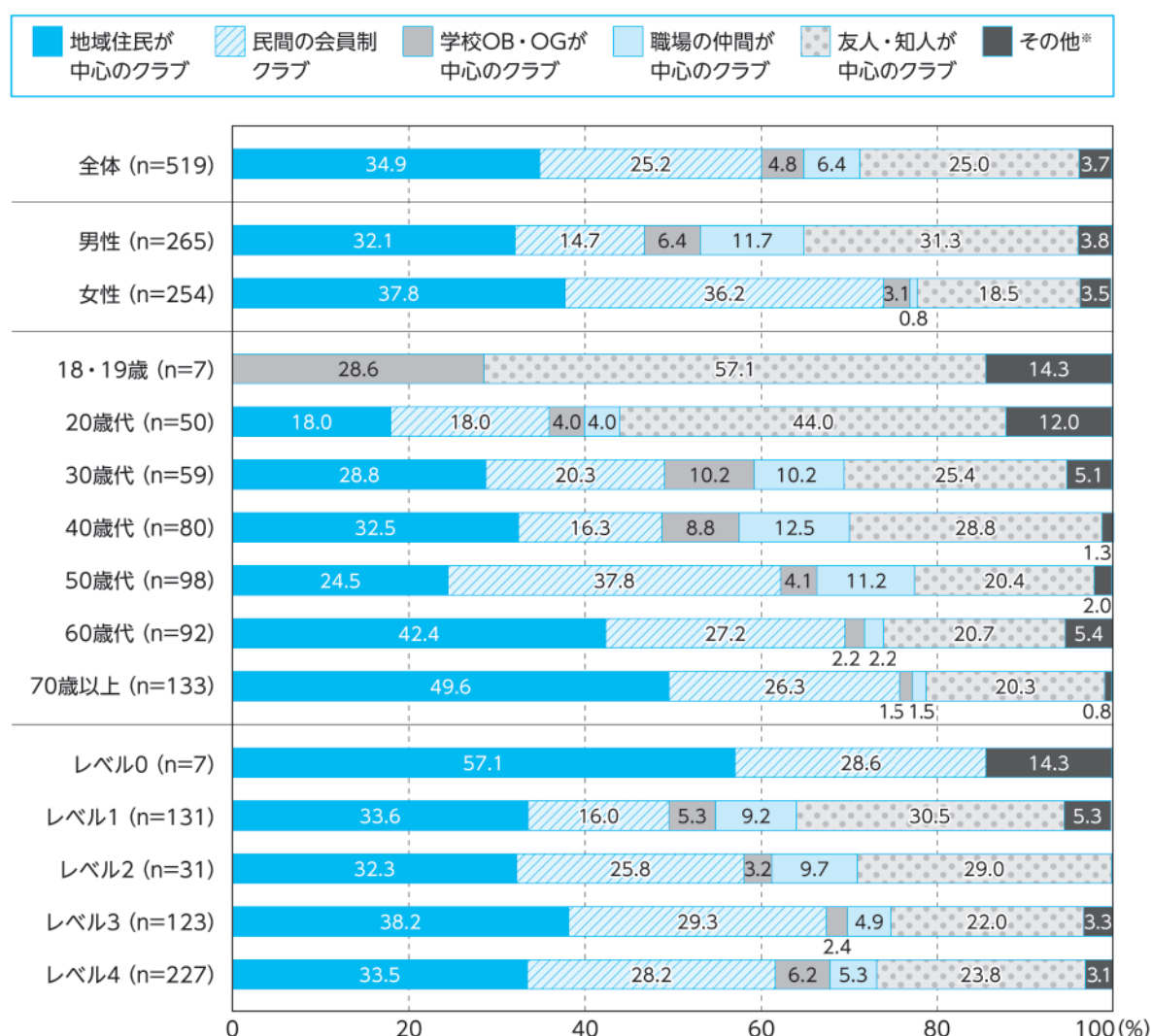
図3-5には、加入しているスポーツクラブの形態を性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別に示した。

性別にみると、男性は「地域住民が中心のクラブ」が32.1%で最も高く、次いで「友人・知人が中心のクラブ」31.3%、「民間の会員制クラブ」14.7%、「職場の仲間が中心のクラブ」11.7%、「学校OB・OGが中心のクラブ」6.4%であった。女性も「地域住民が中心のクラブ」が37.8%で最も高いが、続いて「民間の会員制クラブ」36.2%、「友人・知人が中心のクラブ」18.5%、「学校OB・OGが中心のクラブ」3.1%、「職場の仲間が中心のクラブ」0.8%の順であった。男女で加入しているスポー

ツクラブの形態に違いがみられ、特に「民間の会員制クラブ」は、女性が男性よりも21.5ポイント高い。

年代別にみると、「地域住民が中心のクラブ」への加入率は60歳代で42.4%、70歳以上では49.6%と高くなっている。これに対して「友人・知人が中心のクラブ」への加入率は、20歳代で高く44.0%である。また、50歳代は「民間の会員制クラブ」が37.8%と他の年代と比較して高い割合を示した。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル1」では「民間の会員制クラブ」が16.0%と低く、「友人・知人が中心のクラブ」が30.5%と高い特徴がある。



【図3-5】 加入しているスポーツクラブ・同好会・チームの形態(全体・性別・年代別・レベル別)

※その他:「学校のクラブ・サークル」「趣味の同好会」など

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

3-3 スポーツクラブ・同好会・チームへの加入希望

現在、スポーツクラブ・同好会・チームに加入していない者（加入経験者および加入未経験者）に、今後の加入希望をたずね、図3-6にスポーツクラブへの加入希望率を性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別に示した。

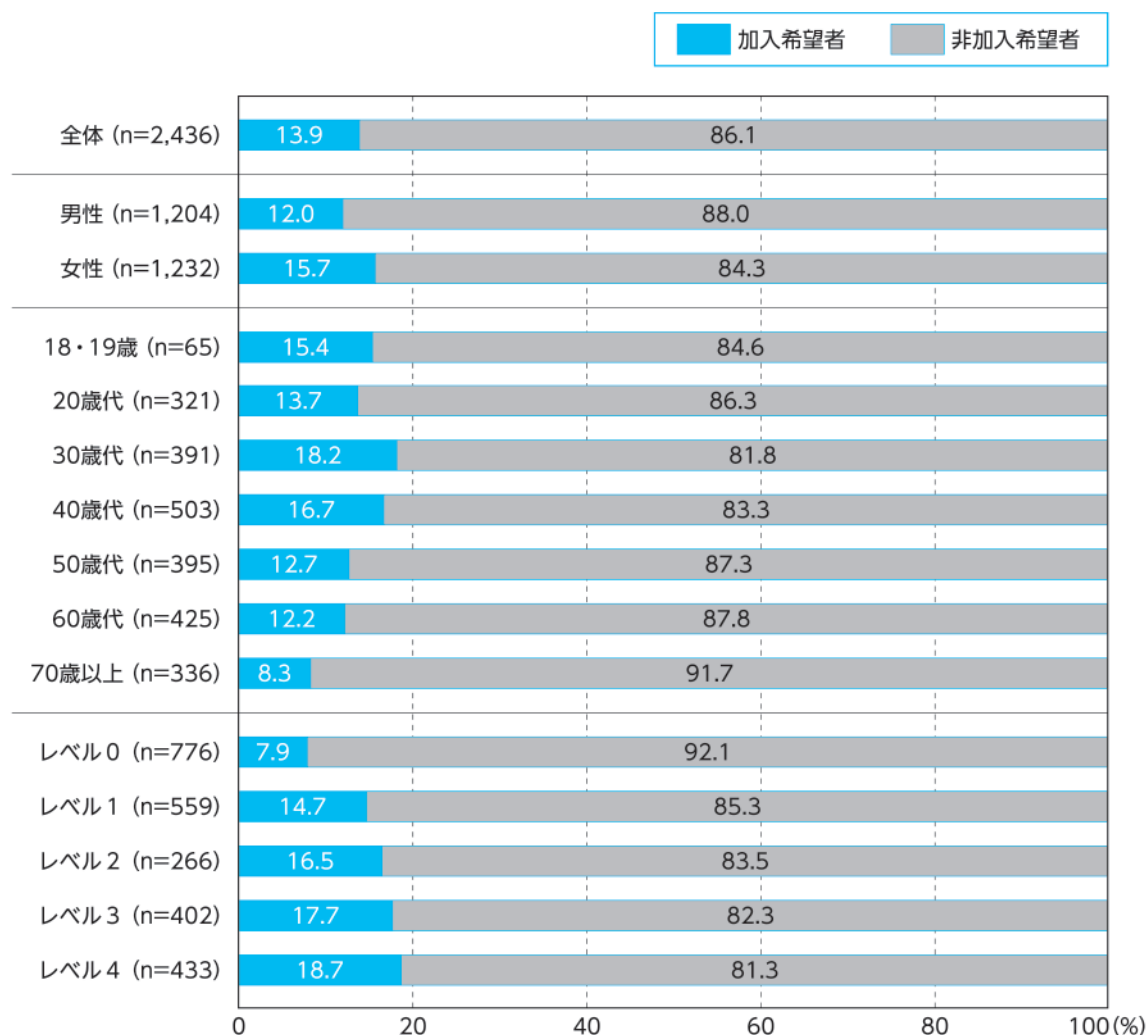
全体をみると「加入したいと思う」（加入希望者）は13.9%であり、「加入したいとは思わない」（非加入希望者）は86.1%であった。なお、加入希望者は前回の

2018年調査では16.8%、前々回の2016年調査では19.5%であり、この4年間では減少している。

性別にみると、加入希望者の割合は男性が12.0%、女性が15.7%であった。2018年調査と比べ、男性は4.3ポイント、女性は1.6ポイント減少した。

年代別にみると、加入希望者の割合は70歳以上が8.3%と低く、その他の年代では1割台である。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル0」の加入希望率は7.9%に留まり、92.1%が非加入希望者である。



【図3-6】スポーツクラブ・同好会・チームへの加入希望率(全体・性別・年代別・レベル別)

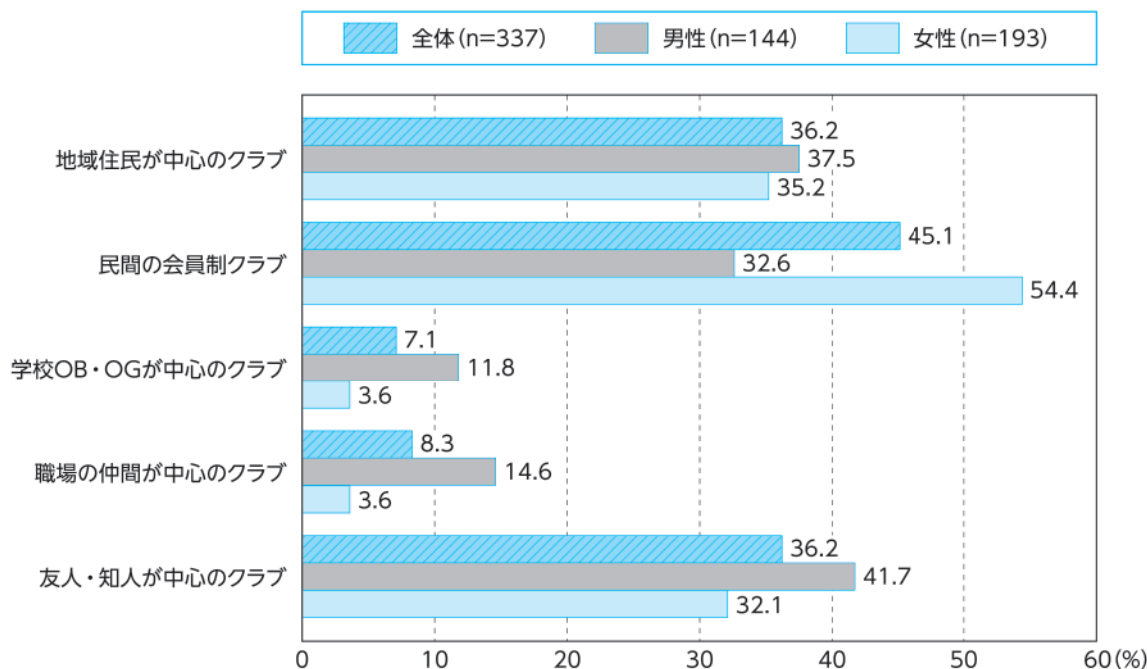
資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

さらに、加入希望者に対して、どのような人たちの集まりのスポーツクラブに加入したいかをたずね、図3-7に今後加入したいスポーツクラブの形態を示した。

はじめに、全体をみると「民間の会員制クラブ」が45.1%で最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」「友人・知人が中心のクラブ」が同率で36.2%、「職場の仲間が中心のクラブ」8.3%、「学校OB・OGが中心のクラブ」7.1%であった。

性別にみると、男性では「友人・知人が中心のクラブ」が41.7%と最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」

37.5%、「民間の会員制クラブ」32.6%、「職場の仲間が中心のクラブ」14.6%、「学校OB・OGが中心のクラブ」11.8%の順であった。一方、女性は「民間の会員制クラブ」が54.4%で最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」35.2%、「友人・知人が中心のクラブ」32.1%、「学校OB・OGが中心のクラブ」「職場の仲間が中心のクラブ」が同率で3.6%となり、男性は友人・知人が中心のクラブ、女性は民間の会員制クラブへの加入希望率が高い。



【図3-7】 今後加入したいスポーツクラブ・同好会・チームの形態 (全体・性別：複数回答)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

COMMENTS

■ ママさんバレーを始めて20年くらいになります。特にスポーツが得意だったわけでもなく、誘われて始めました。県外から嫁に来たので、友人もいない中で、年齢も関係なくチームでスポーツすることが楽しくてしかたなかったです。

(58歳 女性 パートタイム・アルバイト)

■ 58才になって水泳がしくてスポーツクラブに入会し、一から水泳をならいマスターズに出たりしてましたが、怪我をして現在は週に2回ぐらい行って泳いでいます。これからも続けるつもりです。

(70歳 男性 商工サービス業)

■ 気軽に参加できるスポーツチームがもっと身近になってほしいと思う。

(32歳 女性 事務的職業)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020